

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立北宇和高等学校三間分校
学校番号 (43)

評 価 実 施 日		令和8年2月16日 (月)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	稲田 司	司法書士	
	渡辺 吉男	道の駅みま	
	谷口 友宏	宇和島市立三間公民館長	
	樋口 宏治	吉田三間商工会議所副会長	
	富永 洋平	P T A会長	
	徳田 富実代	宇和島市立三間中学校教頭	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (学校評価アンケートを踏まえて) (1) 学校経営について 少人数体制の中で、教職員と生徒の距離が近く、きめ細やかな教育活動が行われていることが学校評価アンケートからも読み取れる。ボランティア活動への積極的な参加など、生徒が地域と関わりながら主体的に活動する姿が見られた。今後も地域とのつながりを大切にしながら、最後まで生徒が安心して学校生活を送れる学校運営を継続してほしい。 (2) 教科指導について 少人数の特性を生かし、生徒の学習状況に応じた丁寧な指導が行われている。生徒の学習時間や読書活動も一定の成果が見られ、落ち着いた学習環境が整っていると感じられる。今後は授業方法の工夫や新しい取組を取り入れながら、生徒の学習意欲をさらに高めるとともに、生徒の成長の様子を保護者や地域へ積極的に発信していくことを期待したい。 (3) 生徒指導について 基本的な生活習慣や身だしなみについて、教職員が粘り強く指導を行っており、地域から見ても落ち着いた高校生として生活している様子がうかがえる。少人数の環境の中で、生徒同士が互いに切磋琢磨しながら社会性を身に付けていくことが大切である。今後も一人一人に寄り添った指導を継続し、生徒が安心して学校生活を送り、社会に出る力を育ててほしい。 (4) 進路指導について ガイダンスや面接指導などを通して、生徒一人一人の希望に応じた丁寧な進路指導が行われている。資格取得についても全校生徒が1つ以上取得するなど成果が見られ、進路実現に向けた取組が充実していると感じた。今後も生徒・保護者・学校が連携しながら、個に応じた進路支援を継続してほしい。 (5) 人権教育について 人権ホームルーム活動や人権新聞の発行、アンケートや面談による相談体制など、人権を大切にする取組が継続的に行われている。また、地域の歴史や人権に関わる出来事を学ぶ活動も実施されており、生徒の理解を深めるよい機会になっている。今後も生徒が互いを尊重し合える学校づくりを進めてほしい。 (6) 特別支援教育について 教職員の研修や専門性の向上により、生徒一人一人の特性に応じた支援が充実している。個に応じた進路指導や関係機関との連携も行われており、生徒の進路実現につながる成果が見られる。今後もこれまで培ってきた特別支援教育の実践を大切に、きめ細やかな支援を継続してほしい。 (7) 学校安全と防災について 避難訓練の実施や、地域の消防署及び教育機関と連携した防災行事など、防災意識の向上を図る取組が行われている。また、生徒・教職員の非常用備蓄セットの整備など、実際の災害を想定した対策も進められている。今後も地域や近隣の教育機関の児童・生徒と連携しながら、防災意識を高める取組を継続してほしい。	「生徒一人一人のよさを見つめ伸ばす教育」を基本方針とし、少人数の特性を生かしたきめ細やかな教育活動の充実を図る。また、地域と連携した諸活動等を通して、生徒が主体的に地域社会と関わる機会の充実に努める。 少人数指導の利点を生かし、生徒一人一人の学習状況に応じた丁寧な指導を継続する。また、授業方法の工夫やICTの活用を進め、生徒の学習意欲の向上を図るとともに、生徒の学習成果や成長の様子について、保護者や地域への積極的な情報発信に努める。 基本的な生活習慣や身だしなみの定着に向け、日常的な声掛けや継続的な指導を行う。また、少人数の環境を生かし、生徒同士の関わりを大切にしながら社会性や規範意識の育成を図る。 進路ガイダンスや面接指導等を通して、生徒一人一人の希望や適性に応じたきめ細やかな進路指導を実施する。また、資格取得に向けた取組を推進し、生徒の進路実現や社会で活躍できる力の育成につなげる。 人権ホームルーム活動や人権新聞の発行等を通して、生徒の人権意識の向上を図る。また、地域の歴史や人権に関わる学習を取り入れ、生徒が人権について主体的に考える態度の育成に努める。 生徒一人一人の特性やニーズに応じたきめ細やかな支援を行うとともに、教職員研修を通して専門性の向上を図る。また、関係機関と連携しながら、生徒の進路実現に向けた支援体制の充実に努める。 避難訓練や防災行事の実施を通して、生徒の防災意識の向上を図る。また、地域の消防署や消防団、近隣の教育機関等と連携しながら、実際の災害を想定した訓練や防災活動の充実に努める。
2 来年度の学校運営への提言 少人数の中で教職員と生徒の関係がより密接となり、生徒が安心して学校生活を送ることができている様子が学校評価アンケート等からも伺える。来年度は在籍生徒がさらに少人数となるが、生徒がのびのびと学校生活を送り、それぞれの目標に向かって努力できる環境づくりに努めていただきたい。また、これまで築いてきた地域とのつながりを大切にしながら、閉校に向けて最後まで充実した教育活動を推進してほしい。	来年度においては、在籍生徒数の状況に応じた教育活動の工夫を行い、生徒一人一人が安心して学校生活を送り、各自の目標に向けて取り組むことができる教育環境の維持・充実を図る。また、これまで築いてきた地域との連携を継続的に活用し、教育活動の質を確保するとともに、閉校に向けて最後まで生徒にとって充実した学校生活となるよう努める。